

日本語の基礎知識

ものの言い方 使い方

知ってるつもりが、ああ勘違い！

明治学院大学助教授

武光 誠



敬語・常套句・言いまわし…

日本語力がつく小事典



青春文庫

日本語の基礎知識
ものの言い方いかた 使い方かた
知ってるつもりが、ああ勘違い!

著者 たけ みつ まこと
武光 誠

発行者 小澤源太郎

責任編集 PrimeWACO

発行所 株式会社 青春出版社

〒 162-0056 東京都新宿区若松町 12-1

電話 03-3203-2850(編集部)

03-3207-1916(営業部)

振替番号 00190-7-98602

印刷／共同印刷

製本／豊友社

ISBN 4-413-09124-8

© Makoto Takemitsu 1999 Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製（コピー）することは著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。

江苏工业学院图书馆

藏书章

日本語の基礎知識

ものの言い方 使い方

知ってるつもりが、ああ勘違い！

武光 誠

青春出版社

はじめに 「ものの言い方」で恥をかかないために

次の二つの話の中に十カ所、日本語の間違った使い方があつた。

「不肖、わたくし山本が、役不足ではございますが、ここで一言挨拶を述べさせていただきますと存じます。おかげさまでわが社もめでたく三十周年を迎えることができました。ここまで参りましたのは、ほかでもございません、ここにいらつしやる皆様のご助言があつたからでございます。今後とも、よろしくお願いいたします」

「今回の事件に関しましては、事実を厳肅に受けとめ、前向きに善処していききたいと思っております。これからは、本腰を入れまして、この汚名をはらしていく所存でございます。何とぞよろしくお願い申し上げます」

会社のパーティーで、政治家などの謝罪の場面で、よく耳にする言葉だろう。一見、実に丁寧な正しい日本語のようだ。

しかし、あなたがもしもそう思つて使つていたら、気づかずに恥をかいていたことになる。日本語には、つきつめていくと思つてもみない意味やいわれが隠され

ている。

事実、この中の、「不肖」「役不足」「おかげさまで」「ほかでもございませぬ」「よろしく願ひします」「厳肅に受けとめる」「前向きに善処」「本腰を入れる」「汚名をはらす」「何とぞ」はすべて、聞く人が聞けば、実に失礼きわまりない言葉だったのである。

本書は、これら日本語の基礎知識とも言えるものの言い方、使い方を徹底的に追究した本である。

間違った使い方で恥をかくことがないように、大いに本書を活かしていただければ幸いである。

武光 誠

目次



1章

知らずに使うと恥をかく――

ビジネス言葉この言いまわし

13

「ご都合どうですか」の一言であなたは相手を怒らせている 14

「おかげさまで」が皮肉たっぷりに聞こえてしまう理由 17

「お世話になっております」は“大変な迷惑をかけます”ということ 20

「わかりました」と言った途端になぜ信用を失くすのか 23

「何とぞ」がずうずうしく聞こえるこんなとき 26

「そこを何とか」はとっても自分勝手なものの言い方 29

「お疲れさま」は相手を間違えると超失礼 32

「よろしくお願いします」で大切な頼みごとは不可 35

「一応」と言うクセは、“自分は低能です”と言っているようなもの 37

「役不足ですが」と謙遜したつもりが大失敗 40

「遺憾です」は全く“遺憾”に思っていない証拠 43

2章

謙譲語・丁寧語の二つが急所――

敬語はもう恐くない

65

「独断と偏見ですが」からはいいい意見は生まれない 46

「はじめをつける」はもともと責任をとる必要のない言葉 49

「前向きに善処します」は自分のために使われる言い方 52

「厳粛に受けとめる」をその場しのぎで使うと危険 55

「手心を加える」のは親しい身内に限られる 58

「手前ども」をやたら口にしてはいけない理由 61

「参りましょう」を不用意に使うと失敗する 66

「いらっしゃる」を使って恥をかいってしまうこんな状況 69

「お邪魔します」では迷惑がられても仕方がない 72

「お氣をつけて」を人に向かって言うのは実に非礼 75

「してください」であなただのセンスが疑われる 78

「結構です」の一言がとんでもない誤解を招く 81

- 「すみません」を軽く使うとこんなに不謹慎 84
- 「お久しぶりです」という挨拶は目上の人には厳禁 87
- 「ございます」を使つていいとき、いけないとき 90
- 「おすそ分け」すると失礼にあたる相手とは？ 93
- 「お見事ノ」とほめたつもりでいると大間違い 96
- 「お見苦しい」が相手を不快にさせる理由 99
- 「弱輩」は心底情けない奴と思われるので要注意 102
- 「不肖」の一言が嫌われるものになる 105

3章

言つてからではもう遅い――

思わず口にする決まり文句

109

- 「トリをとる」のトリは「天下とり」と同じ意味の言葉 110
- 「さいさき悪い」は「幸先」なのになぜ悪い 113
- 「ご想像におまかせします」で知らずにカドが立っている 116
- 「かわいい子には旅をさせよ」は今では通用しない 119

「生きざま」と言ったそばから笑われる	122
「全然、大丈夫」は“大丈夫”ではない言いまわし	125
「流れに棹さす」人はむしろ流れに吞まれている人	128
「一挙手一投足」はルーツを知ったらもう使えない	131
「どうも」で不遜な人間だと思われる	134
「おあいそ」はお客のあなたが言っではいけない	137
「滅相もない」は安易に用いてはならない大げさな表現	140
「足元をみる」はずる賢い人が使っていた言い方	143
「べつに」のルーツは否定を弱めた言葉	146
「根ほり葉ほり」こそ“根も葉もない”言葉	149
「食通」の本来の正しい使い方	152
「おしゃれ」は実はみせかけだけの最低なほめ言葉	155
「口をにごす」の大失敗、本当は“言葉をにごす”	158
「きいたふうな」とは“聞いた”ではなく“利いた”	161
「関係ない」は思った以上に強烈な言い方	164

4章

語源を知ったら大あわて――

このタブー語で常識を疑われる

167

「本腰を入れて」は人前で口にするのが恥ずかしい言葉 168

「悪女」は決まっている女の代名詞ではない 171

「お茶をにごす」のルーツは「男女の営み」 174

「絶倫」は男性機能のほめ言葉ではなかった 177

「未亡人」は「早く死んでください」と言っているようなもの 180

「酒池肉林」の本家のスケールはこんなに違う 183

「とぼっち」が「小便のしぶき」だって知ってました？ 186

「赤恥」の赤はなぜ悪いものをさすのか 189

「細君」と他人の妻を呼ぶのは無神経 192

「武骨者」と言われる人ほど軟弱なのはなぜか 195

「生前」は死んだ人に使うのに「生まれる前」？ 198

「披露宴を終わる」は忌み言葉では済まされない 201

「いみじくも」はもともと「忌む」が転じたタブー語 204

「カエルの子はカエル」で親子二代をバカにするつもり？ 207

5章

あぶない手紙の常套句

211

ついうっかりでは済まされない――

「小生」とへりくだったはずが嫌味に……なぜ？ 212

「殿と様」この使い方が丁寧・非礼の境目 215

「汚名をはらす」ではあなたの知性が問われる 218

「老婆心ながら」のホントの意味知ってますか 221

「夫人」はかつて「婦人」と一線を画す言葉 224

「溺れる者はワラをもつかむ」はもとはかげ口？ 227

「あなた」ほど時代とともに変わった呼びかけはない 230

「ほかでもございません」こそ実はぶしつけな書き方 232

ブックデザイン・カバーデザイン 坂川事務所

本文イラスト 水野良太郎

制作協力 フリーウェイ

1章

知らずに使うと恥をかく――

ビジネス言葉

この言いまわし

「ご都合どうですか」の一言であなたは相手を怒らせている

「都合^{つごう}」という便利な言葉がある。「都合が……」と言うのは、何かをごまかすときにいつでも使えるあいまいな言葉だからである。

総務課長が株主総会の知らせの電話を大株主である会長のところにかけて。会長は高齢で口うるさい。

そこで、総務課長はこのように言ってしまった。

「来月一日の午後一時から、株主総会をひらきます。ご都合はどうでしょうか」
この言葉を聞いたとたんに会長は、

「口のききかたもわからぬ若造め、ばかもの」
と怒り出した。

「ご都合はどうでしょう」
ではなく、

「ご都合はいかがですか」
が、敬語としては正しい。

しかし、会長はそのような細かいことで怒ったわけではない。

総務課長の話しぶりからは、

「いろいろご都合がおりでしょうから、いらしていただかなくてもかまいません」という気持ちが伝わってしまったのだ。相手は多忙だが、できれば少しでも顔をみせてほしいと考えるならば、

「ぜひいらしてください」

になる。そこまで気楽な表現を使えない相手に対しても、

「ぜひいらしていただきたいのですが、ご都合はいかがでしょうか」

と言えば、来てもらいたい気持ちが伝わる。そして、

「ご都合はいかがなものでしょうか」

「ご都合はどうでしょうか」

「ご都合はどんなものでしょうか」

となっていくにつれて、来てもらいたくない気持ちがつよまる。

「都合」とは、「すべ（都）て合わせる」ことをあらわす漢語にもとづくものだ。だから、「合計」を「都合」と言うことがよくある。「都合十六個」などと言うのがそれだ。